

神戸日独協会会報 305号(2016年5月)目次

神戸日独協会ホームページの刷新について	1
2016年全国日独協会連合会年次総会報告	2
全国日独協会連合会 ー第10回若手会員の集いー	
第149回ドイツ語談話室「どのように健康を維持するか」	3
Protokoll der 149. Deutschen Gesprächsrunde : Wie bleiben wir gesund	
ドイツ文化サロン「女性が支える国際交流」	6
第10回「国際交流 ～現在進行形～」案内	
第9回「ドイツ語と出会って」感想文	
塞翁が馬	Sung Kwang-Hye
好きなことを仕事にできる幸せ	日下 澄子
シュタムティッシュ	8
日独若者の「神戸再発見」	
第28回「桜の通り抜け」報告	北村美里
SAKURA NO TORINUKE (桜の通り抜け)	Anna Götz(アンナ ゲッツ)
行事参加感想	11
桜の女王歓迎パーティーに参加して	大澤 明子
会員からの寄稿	12
Berlin で R.Strauss 三昧	押尾 愛子
事務室からのお知らせ: 会報発送ボランティア募集	14
これからの神戸日独協会の催し	

特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.305

Mai 2016

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

神戸日独協会ホームページの刷新について

神戸日独協会は5月から「ホームページ」を一新しました。情報発信の速報性と多様化、会員相互の情報交換、地域との連携などに応えるべく、協会では実行委員会を中心に半年前から「ホームページ」の刷新について議論を重ね、試行版を何度も作成してきました。神戸日独協会の活動をより生き生きと、より広く、より親しみやすく、より分かりやすく伝えられる「ホームページ」を立ち上げることができました。

新しい「ホームページ」の特徴は、大きく3つあります。

一つ目は、講座・イベント・事務室等からのお知らせを、トップページおよび各該当ページに表示させ、また各お知らせの詳細情報が書かれた個別ページを表示できるようにした点です。これは、神戸日独協会の「ホームページ」を初めて訪れた方にも、普段から見てくださっている方にも、協会として“今”知らせたい情報をわかりやすく伝えることを目的としています。

二つ目は、活動アーカイブを掲載した点です。まず会報を「ホームページ」で閲覧できるようにしました。会報は、神戸日独協会の活動を伝える会員のための読み物である一方で、協会の魅力を伝える広報的な一面もあります。今回の刷新により、会報が協会内外のより多くの方々にとって神戸日独協会への理解を深める情報源の一つとなることを目的としています。もう一つに、日常の活動はブログ形式で紹介し、神戸日独協会の“今”を発信してまいります。会報およびブログ記事の掲載により、神戸日独協会の活動をホームページ上にアーカイブ化できるようになります。

三つ目は、スマートフォン用の表示ができるようになった点です。神戸日独協会ホームページへのアクセスの半数近くがスマートフォンなどのモバイル端末からとなっています(2016年5月7日時点)。今日の情報環境に応え、スマートフォンからでも見やすく、わかりやすく、操作しやすいデザインを目指しました。このために、刷新前の「ホームページ」の内容を整理・再構築しました。

今後はこのホームページを充実させながら活用し、神戸日独協会の活動や魅力を発信してまい

ります。会員の日下澄子さんをはじめ制作にご協力いただきました皆さまには、心より感謝を申し上げます。

2016年全国日独協会連合会年次総会報告

会長 畠田 義一

4月22日に福岡市で西日本日独協会の主管により「2016年全国日独協会連合会年次総会」が開催されました。59の日独協会中全国から21協会の参加がありました。

KKRホテル博多にて木村敬三連合会会長代行の挨拶で総会が始まり、議事が審議されました。全国日独協会連合会役員の改選(監事1名を除き前役員は継続、神戸日独協会は引き続き副会長を勤めます。大阪日独協会が新たに副会長に加わりました)、2015年度決算と2016年度予算案、大分日独協会と日独ユースネットワークの加盟などが承認され、日独若者交流促進資金の終了などが報告されました。その後例年のように、参加協会から2015年度の活動状況が報告されました。夜には懇親会が開かれ、サミット関連諸大臣会合でご多忙のヴェアテルン大使も東京から駆けつけて参加され、2時間足らずで帰京されました。大使には再び来神されるようお願いを致しました。

今年の総会は西日本日独協会創立60周年を記念して福岡で開催されましたが、一週間前に起きた熊本地震の活発な余震の続く中での開催になりました。福岡以南の日独協会は、大分日独協会を除き、交通不通などのために参加がありませんでした。早き地震活動の終息と復旧を祈念いたします。

全国日独協会連合会 —第10回若手会員の集い—

実行委員 大西 晋輔

全国日独協会連合会総会に引き続き4月23日の15時から18時まで福岡市のドイツレストラン「Zur Stadt Mainz」で行われました。北海道日独協会から西日本日独協会まで、6つの協会から18人の若手会員が参加しました。西日本日独協会では、会場となった「Zur Stadt Mainz」で講座をすることもあるそうです。

若手会員の定義は30歳以下から45歳以下までと協会によってさまざまでしたが、どの協会も会員の高齢化は共通している様子でした。一つの原因として、「入っていくには敷居が高く感じられる」のではないかと、ということで若手会員の集まりには非会員も登録できるようにすることや、「中二病で学ぶドイツ語」など参加しやすいイベントを行っている協会もありました。

また、前日の総会で設立が承認された日独青年交流を担う新規団体「日独ユースネットワーク」の紹介もありました。このネットワークは国内全体で日本とドイツの青年交流の活性化を行い、

DJYG(独日青少年協会)のカウンターパートとなるもので、国内の青年交流促進のハブとしての役割を担うもので、各地でのイベント企画や若手会員の集いなどを活動内容にするとのことでした。神戸日独協会では活動実績のあるGJYGを中心にこのネットワークの活動に参加していきます。

ドイツ語談話室

第149回ドイツ語談話室

日時：2016年4月16日(土) 14時-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：どのように健康を維持するか

今回の司会は原田耕作氏が担当し、WHOの統計から見ると、日本人の平均寿命は84歳(男80・女87)で世界一であるが、平均健康寿命(自立して生活できる)は72歳(男70・女73)で、平均10年以上の自立できない状態があることも指摘し、生涯健康寿命を保つことの大切さを強調した。

次に、参加者の皆さんが、自身の健康法について話した。以下その一部を紹介する。

—六甲山や生駒山他近辺の山々にハイキングをしている。週30Kmが目標。また、頭の体操には、ドイツ語を勉強している。

—身体の方は、テニスやゴルフを楽しんでいる。また、ドイツ語を含め、多言語を学んでアルツハイマー病の予防に努めている。

—テニスやダンスで運動をしている。ピアノやバイオリンの演奏に、音楽の練習もしている。また、お料理にも力を入れて、頭も使っている。

—定期的な運動と、公園での散歩で気分転換を図る。また、カラオケでストレスを発散させることは、とても良い健康法になっている。

—気功のグループに入っていて、毎朝30分のトレーニングはとても体に良い。また、岡本から六甲山へのハイキングにもよく行く。

—箕面へのハイキングや毎夕方の散歩でのウォーキングで運動。海外旅行を楽しんだり、音楽の練習にも励む。また、手先を使う新しい刺繍やお料理で脳のトレーニング。

—教会でのボランティア活動への参加やピアノの練習など、毎日何かすることが詰まっている。このように、毎日何か集中すべき事があることが、健康の基。

—手先を使うことは、バランスの取れた朝食の用意をしたり、スパゲッティの得意料理を作ったりで鍛える。囲碁や詩吟で、脳のトレーニングや呼吸のトレーニングを続けている。

今後のドイツ語談話室の予定

第150回 5月21日(土) 14時—16時

テーマ：日本とドイツでの住宅事情

Deutsche Gesprächsrunde Protokoll der 149. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 16. April 2016 14 bis 16 Uhr

Thema: Wie bleiben wir gesund

Dieses Mal hatte Herr Kosaku Harada die Gesprächsleitung und erzählte zuerst, dass laut WHO Statistik die durchschnittliche Lebensdauer von Japanerinnen und Japanern 84 Jahre beträgt (87 bei Frauen und 80 bei Männern). Die ist die längste durchschnittliche Lebensdauer auf der ganzen Welt. Die WHO Statistik zeigt auch, dass die durchschnittliche gesunde Lebensdauer (also die Dauer, in der man selbstständig sein Leben verbringen kann) bei Japanerinnen und Japanern 72 Jahre ist (73 bei Frauen und 70 bei Männern). Der Unterschied zwischen diesen beiden Statistiken bedeutet, dass Japanerinnen und Japaner durchschnittlich in mehr als 10 Jahre ihrer Lebensdauer auf Pflege angewiesen sind. Herr Harada sprach von der Wichtigkeit, sich eine lange gesunde Lebensdauer zu erhalten.

Von den Teilnehmerinnen und Teilnehmer kamen folgende Wortmeldungen.

-Ein Teilnehmer wandert oft über die Berge in der Nähe, z.B auf die Berge Rokko oder Ikoma. Sein Ziel ist es, pro Woche insgesamt 30 km zu wandern. Als Gedächtnistraining lernt er die deutsche Sprache.

-Körperlich trainiert sich ein anderer Teilnehmer beim Tennis und Golf Spiel. Um der Alzheimerkrankheit vorzubeugen, lernt er mehrere Sprachen, inklusive Deutsch.

-Eine Teilnehmerin spielt gerne Tennis und tanzt. Sie spielt Klavier, Geige und übt sich im Gesang. Sie kocht auch gern. Auch damit trainiert sie, um geistig bei Kräften zu bleiben..

-Ein weiterer Teilnehmer bewegt sich regelmäßig und erholt sich beim Spaziergang in Parks. Die beste Methode für ihn, Stress abzubauen, ist aber das Singen in einer Karaoke-Bar.

-Eine andere Teilnehmerin übt jeden Morgen 30 Minuten lang „Kiko“ in einer Kiko Gruppe. Die Übung tut ihrer Gesundheit sehr gut. Sie wandert auch oft von Okamoto ins Rokko-Gebirge.

-Noch eine weitere Teilnehmerin macht jeden Abend Spaziergänge und wandert oft in

die Berge von Mino. Sie genießt Auslandsreisen und singt gerne. Ihre geistigen Fähigkeiten trainiert sie mit immer neuen Stickereien und Kochen.

-Eine Teilnehmerin hilft freiwillig in einer Kirche mit und übt auch Klavier. Sie hat jeden Tag mit Vorhaben voll. Die Basis ihrer Gesundheit ist es, immer etwas zu haben, auf das sie sich konzentrieren kann.

-Ein Teilnehmer übt Geist und Hände bei der Zubereitung wohl balancierter Speisen

zum Frühstück, wie auch von besonderen Spagetti-Gerichten. Er trainiert sein Gehirn beim Go-Spiel und seine Atmung bei „Shigin“, also der Rezitation chinesischer Gedichte.

Nächste Treffen:

Samstag 21. Mai 2016 14 bis 16 Uhr, Thema: Wohnverhältnisse in Japan und in Deutschland

Samstag 18. Juli 2016 14 bis 16 Uhr, Thema: Mein liebstes deutsches Wort

ドイツ語談話室 第150回記念祝賀会

早いもので、2012年のドイツ語談話室100回記念からもう4年が経ちました。

第1回目から談話室に参加されてきた方、途中で入ったり、辞めたりした方、みなさん大歓迎です。バラの季節に Kobe Club で、ゲームしたり、歌を歌ったりしてみんなでお祝いしましょう。参加される方は、5月20日（金）までに、事務所にご連絡ください。

日時：6月4日(土)12:00~14:00 (開場、受付 11:30~)

場所：神戸外国倶楽部(Kobe Club)(Tel. 078-241-2588)

参加費：3500円 (ミニコンサート&ランチつき)

Wie die Zeit so schnell vergeht. Im Jahre 2012 haben wir unsere 100. Gesprächsrunde gefeiert und mittlerweile sind schon wieder 4 Jahre vergangen.

Wir möchten nun auch die 150. deutsche Gesprächsrunde fröhlich zusammen verbringen und würden uns freuen, wenn Sie zahlreich teilnehmen. Lassen Sie uns im Kobe Club bei gemeinsamen Mittagessen, Singen und heiteren Spielen dieses Ereignis feiern und uns an die gemeinsam verbrachte Zeit erinnern.

Alle Interessierten, die bisher jemals an unserer deutschen Gesprächsrunde teilgenommen haben, sind herzlich eingeladen. Wir freuen uns auch über neue Gäste, die ein wenig Deutsch sprechen können.



ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第10回 『国際交流 ～現在進行形～』

- ・講師： Sung Kwang-Hye(成 光恵)さん(尼崎市嘱託員 国際交流担当)
兵庫県尼崎市生まれ、在住。京都市立堀川高等学校音楽科ピアノ専攻、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専修を経て、ミュンヘン音楽大学大学院マイスタークラス(ピアノ専攻)修了、その後ミュンヘン大学で音楽学を学ぶ。ケルン国際ピアノコンクール、フィナーレ・リグレ(イタリア)国際ピアノコンクールにてディプロマ賞。フルステンフェルトブルック市立音楽学校ピアノ講師。在ミュンヘン日本語補習校教師。ミュンヘンサミットの際、新聞・情報庁にて日本人ジャーナリストの世話係として勤務。2011(平成23)年4月より尼崎市嘱託員として国際交流(姉妹都市アウクスブルク市)を担当。
資格等：ドイツ語技能検定試験1級、ドイツ語大ディプロム(Großes Deutsches Sprachdiplom)、通訳案内業(ドイツ語)、秘書検定1級。
- ・日時： 2016年5月27日(金)18:00～20:00 (開場 17:45)
- ・会場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)
- ・会費： 会員および家族 1300円、非会員 1500円 (ケーキと飲物代)
当日受付にて支払ってください。
- ・申込： 5月25日(水)までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

第9回 『ドイツ語と出会って』

- ・講師： 飛鳥井 たまきさん(大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館)
- ・日時： 2016年4月28日(木)18:00～20:00
- ・会場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

「塞翁が馬」

会員 Sung Kwang-Hye

自分の意志で海外へ行き、キャリアを積まれた方のトップバッターとして大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館の飛鳥井たまきさんのお話を伺うことができました。

2004年から総領事館で勤務され、文化部を担当、また総領事の通訳として忙しく毎日を過ごされているようですが、好きな仕事、ご主人様、お嬢さんに囲まれ毎日が充実しているそうです。

しかし、ここにたどり着くまで、様々な紆余曲折がおありになったようです。しかし、お話をお伺いしていると、どんな時も前向きでポジティブなお姿に勇気と元気を頂戴いたしました。

飛鳥井さんのお話をお伺いしていると、その人生にはいくつかのターニングポイントと影響を与

えた人たちがいたように思われます。

ご本人の弁によれば、ご家庭の状況もあり、条件に合うように消去法で不本意な大学入学をされたということですが、そのような中でも、学力、人格においても一定の高いレベルを保っておられたのは、現在のお姿につながっているように感じました。

大学時代に、知り合いのご家庭のお嬢さんから、ベルリン生活の様子を聞いたことで、淡いドイツ語に対する思いを持たれたようです。また、ドイツ語の論理的でクリアな部分が性格にも合っていたのかも知れません。大学の選択科目もドイツ語を選ばれました。

通っていた大学がハイデルベルク大学と学生交換をしていたことから、留学経験のある男子学生に積極的に相談をし、未知の世界を経験したいという大きな目標のもと、留学選抜試験を目指し努力なされたのだそうです。しかし、希望は叶わず、相談者でもあった彼との別離も同時に訪れ、人生での大きな挫折を味わいました。

しかしその後、視点を変え、私費でドイツ留学を果たした後、女子寮での生活を通し、ドイツ語能力をどんどん高めていきましたが、特にドイツ語学校での「かな子ちゃん」との毎日の授業の確認作業が、大きな成果をもたらしたようです。

帰国後、大学院へと進まれるのですが、この時の「大学院への進学について相談した男性(後のご主人様)」との絆は、しっかりと現在に至っておられます！

ドイツ留学中から始めていた通訳のお仕事を帰国後も続け、重要な代表団や様々なシチュエーションでの実績を積み重ねました。通訳者の勉強会で、メモの取り方などのスキルを磨かれたそうです。通訳業務の事前準備をされているお話には、頭が下がる思いです。どのような分野にも対応しなければならないので本当に大変です。

そうこうしているうちに、総領事館から通訳官の面接のお誘いを受けられましたが、残念にも他の方が採用されましたが、その後も通訳の実績を積み重ね、家庭的にはお嬢さんの誕生もあり、3年後再び総領事館からのお誘いがあった時には、「満を持して」という言葉がピッタリ！総領事部文化部でのお仕事が始まったのです。

休憩(お食事)時間を挟み質疑応答では、日本語とドイツ語との細かいニュアンスの違いはあるにせよ、話し手が何かを話したら必ず何かの言葉で通訳するよう努める、資料は必ずしも早く手に入るとは限らないので、通訳するテーマについて自分から積極的に集めるように努力するなど、

日々の並々ならぬ努力が垣間見えます。緊張を強いられるお仕事にもかかわらず、若い人へのメッセージは「塞翁が馬」と、様々な挫折の後、好きな仕事と愛する家庭に囲まれている飛鳥井さんご自身が、本当に「今」を楽しんでいらっしゃるのだと感じました。最後に印象に残った講演者としてカウダーキリスト教民主・社会同盟(CDU/CSU)院内総務の名前を挙げられました。次回の来日講演会を楽しみにしています。

好きなことを仕事にできる幸せ

会員 日下 澄子

今回はドイツ総領事館の通訳としてご活躍の飛鳥井たまきさんより「ドイツ語と出会って」のタイトルで、飛鳥井さんがドイツ語と出会い、ドイツ総領事館の通訳となり、現在に至るまでのエピソードを中心にお話いただきました。

この「ドイツ語と出会い、ドイツ総領事館の通訳となり」までのエピソードを一言で表すと“波瀾万丈”と書きたくなるほど山と谷が連続するのですが、しかし内容は決してそうではなく、一貫して「好きなこと(ドイツ語)を仕事にするため」の“努力と決断”の連続。この“努力と決断”があってこそ現在のキャリアと幸せ、またそれらを応援して下さった周囲の方に感謝されるお姿に、とても励まされました。

飛鳥井さんは、ご家族の影響もあり大学生の時に第二外国語としてドイツ語を学びはじめました。初めから通訳を目標としていたわけではなく、また在学中はドイツ語を通じた出会いと青春の苦みを経験し、国費留学を志して猛勉強したものの選考からは落ち、しかし私費でドイツに留学する道を選び、そのための資金もご自身で稼ぎ、大学卒業後にドイツに渡りました。ドイツでも勤儉力行の日々を送り、一年後には私費留学を一年延長することを決断。将来を鑑み帰国を決断され、やはり好きなドイツ語を仕事にしたい想いで通訳を志し、ドイツ総領事館の通訳採用試験も一度は不採用になったものの、努力と出会いを大切にしてきた結果、現在のキャリアに至った、というエピソードでした。

私が一番心に残ったことは、飛鳥井さんが「好きなことを仕事にする幸せ」を語ってくださったことです。好きだけれど、初めは人より特別に優れているわけではないけれど、諦めずに努力して、感謝して、時には大きな決断をして掴んだ仕事。“波瀾万丈”あるけれど、ドイツ語を仕事にしたいという一貫した想いで“努力と決断”を続けられた様々なエピソードに、紆余曲折の末に至った私自身のキャリアとドイツ語との出会いを重ね、そしてそれを応援して下さる方々の顔を思い浮かべながら、「好きなことを仕事にできる幸せ」を噛み締めました。

それから「外国語を身につけるためにはこの努力が必要だ！」と思ったことは「(飛鳥井さんの場合は)一日3つ、伝えたいことを言い続けた」ことです。これを3ヶ月間続けたら、概ねことは言えるようになったとのこと。GWの5月3日(祝)の帰省時、新幹線で隣に座ったドイツ人に「今日は何の日?」とドイツ語で尋ねられ「憲法記念日」と答えられなかった私は、実家に到着後、辞書を開いたのでした。

「シュタムティッシュ」

日 時： 5月28日(土) 15時～17時

場 所： 神戸日独協会会議室

テーマ：「シュレスビッヒ・ホルシュタイン」

5月11日(水)～14日(土)の予定で「シュレスビッヒ・ホルシュタイン州」から代表団が来県の予定です。同地の独日協会のキーフマン会長もメンバーの一人で、当協会でも5月13日(金)に同会長の歓迎会を予定しています。今回も代表団およびキーフマン会長の来県に因み、シュレスビッヒ・ホルシュタイン州をテーマに取り上げます。同地で生活された方や留学された方、同地を旅行された方、また、同地には未だ行ったことはないが興味をお持ちの方等々、いろいろな方々に参加していただきシュレスビッヒ・ホルシュタイン州の魅力などについてコーヒーなどを飲みながら歓談

していただきます。シュレスビッヒ・ホルシュタイン州に留学や旅行を予定している方も是非参加していただければと思います。

参加費： 一般 800円 会員 500円 (ソフトドリンク、お茶菓子付き)

当日受付にお支払いください。

申し込み： 5月27日(金)までに事務所までメール・電話・ファックスでお申し込みください。

日独若者の「神戸再発見」

第28回「桜の通り抜け」報告

理事 北村美里

今年も桜の通り抜けに行ってきました。

駅から会場に向かう途中には、ずらりと屋台が並んでいます。この屋台を見て歩くのも楽しみのひとつ。立ち寄った金魚すくい屋では、初挑戦のドイツ人参加者の方も、遊び方を説明してくれた日本人参加者の方も素晴らしい腕前を披露してくれました。

会場では、今年も多種多様な桜が満開で私たちを迎えてくれました。造幣局ホームページによると今年の通り抜けで見られる品種は133品種。薄いピンクから緑がかったものまで様々な色の花を間近に見て歩くことができました。面白い視点だと感じたのはドイツ人参加者の方が桜を支える添え木にも注目していたことです。添え木だけでなく、警備員の方、通訳の方、美しい眺めの裏にはそれを支える人の手があるということにも改めて目を向けた通り抜けでした。



SAKURA NO TORINUKE

Anna Götz

Mein Name ist Anna Götz. Ich bin neunzehn Jahre alt und komme aus Deutschland. Als ich im Juni letzten Jahres mein Abiturzeugnis erhalten habe, beschloss ich mich auf in die weite Welt zu machen. Meine Ziele: fremde Kulturen kennenlernen, meinen Horizont erweitern und eine andere Perspektive gewinnen, bevor ich im Herbst anfangen werde zu studieren. Als Höhepunkt dieses „Gap Years“ darf ich nun als elfte Stipendiatin der Grünwald Stiftung für drei Monate nach Japan. Dabei möchte ich jede Minute nutzen, um dieses faszinierende Land, seine Menschen, ihre Mentalität und Kultur kennenzulernen. Umso erfreuter war ich, als ich von der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe zu einer Kirschblütenschau eingeladen wurde.

Bei besagtem Hanami trafen wir uns am Sonntag, den 10. April, in Osaka bei der Station Sakuranomiya. Von dort aus schlenderten wir entlang des Yodo Richtung Osaka Burg. Dabei war der Weg gesäumt von unzähligen Straßenständen, sodass es in Kombination mit den vielen Menschen ein bisschen an ein deutsches Volksfest erinnerte - nur mit dem Plus, dass wir umgeben waren von den wunderschönsten

Kirschblüten. Unterwegs erklärten mir meine extrem netten Mitstreiter die lokalen Spezialitäten und Imbisse, die an den Ständen verkauft wurden. Im Grunde genommen wurde mir bei jedem Gericht geraten, es während meinem Aufenthalt in Japan zu kosten. Japaner lieben einfach ihr Essen.

Es wurde aber nicht nur Speisen, sondern auch Spiel und Spaß an den Ständen angeboten. So konnte ich mit großer Freude das typisch japanische Spiel „Kingyo-sukui“ ausprobieren.

Nach diesem dem „deutschen Rummel-Erlebnis“ sehr ähnlichen Auftakt ging es dann zu dem eigentlichen Highlight des Tages, der Besichtigung des Sakurano-torinuki. Hierbei handelt es sich um eine einen halben Kilometer lange Straße auf dem Gelände der Japanischen Münze. Diese Straße ist gesäumt von um 350 spätblühenden Kirschbäumen. Aufgrund der Schönheit der Blüten dieser Bäume und der Liebe der Japaner für alles, was mit Sakura zu tun hat, war es wahnsinnig voll. Dieser Nachteil wurde aber bei Weitem durch die traumhaft schönen Kirschblüten wettgemacht.

Nachdem wir uns an der Blütenpracht erfreut hatten und zwischen denen zur Zeit der Kirschblüte sehr ausgelassenen und fotografierfreudigen Japanern die Straße entlang gelaufen waren, ließen wir den wunderbaren Tag bei einem Kaffee und interessanten Gesprächen ausklingen.

Sakura, eine der sehr netten Teilnehmerinnen, ging danach noch mit mir typisch japanisch Essen. Bei einer sehr angeregten Unterhaltung genossen wir die wirklich

köstlichen Speisen.

Alles in allem war es also ein unvergesslicher Tag, bei dem ich unzählige neue Erfahrungen sammeln konnte. Deshalb möchte ich mich bei dieser Gelegenheit bei allen, die mir diesen wunderbaren Tag ermöglichten, bedanken. Vielen, vielen Dank!!!

「桜の通り抜け」

アンナ ゲッツ

私の名前はアンナ ゲッツです。19歳でドイツから来ました。昨年6月高校を卒業した時、もっと広く世界を見てみようと思いました。大学が始まる9月前に、他の国の文化を知ること、自分の視野を広げ他の国の考え方を得ることが、私の目的でした。この高校から大学に移り変わる切れ目の時期“GAP YEAR”に 自分の目的を達成したい気持ちが高まっていた頃、グリュンヴァルト財団の第11期研修生として日本に3か月滞在できることとなり、1分たりとも無駄にせず、この魅力あふれる日本の国を、日本人の事を、そして日本の文化を知りたいと思っていました。それだけに一層神戸日独協会から桜のお花見への招待を受けたときは、嬉しかったです。

お花見の日は、4月10日、日曜日、JR 桜の宮駅で集合しました。そこから淀川に沿って、大阪城に向かってブラブラ歩いて行きました。道の両側には、数え切れないほどのたくさんの屋台が建ち並び、大勢の人たちが集まってきていたので、少しドイツのお祭りを思い出させるものがありまし

たが、今回は、屋台だけでなく、とても美しい桜にも取り囲まれていました。道の途中では、屋台で売られている地方の特産物や、おつまみなどを私に熱心に説明して勧めてくれる威勢のいい人たちがいましたが、どんな食べ物でも日本の滞在中に味わってみようと思っていましたので、味見してみました。日本人は本当に地元の食べ物が好きなんですね。屋台では、食べ物ばかりでなく、遊んで楽しさを与えてくれるところもありました。お祭りの時に決まってつきものの遊び ”金魚すくい“を 私もやらせていただき、ものすごく嬉しかったです。

ドイツのお祭り騒ぎと似たような体験をしたあと、本来きょうのハイライトである桜の通り抜けを見に行きました。それは、日本の造幣局の敷地に半キロメートルにも及んでいるのです。この通りの両側には、350本もの遅咲きの桜が咲き並んでいました。桜の美しさに魅かれ見にきていた桜好きの人たちでいっぱいでしたが、夢でも見ているような美しい桜を見て、納得させられました。

見事に咲き輝く美しい桜の花を見て楽しみ、この桜の時期に嬉しくてたまらなく写真をとりまくる日本人に交じって桜の通り抜けをし終えたあと、みんなでコーヒーを飲んで、楽しいおしゃべりをしながら、素晴らしい一日に幕が閉じました。解散後も、とても親切な参加者のうちの一人、さくらさんと一緒に典型的な日本料理のお店に行きました。弾んだおしゃべりをしながら、本当に美味しいごちそうを味わいました。

何もかもが、数え切れないほどたくさんの新しい経験を積んだ忘れられない一日でした。それで、この場をお借りして、私にこのような素晴らしい日を体験させてくださったすべての方々にお礼を申し上げます。 本当に 本当に どうもありがとう !!! (井川伸子 訳)

行事参加感想

桜の女王歓迎パーティーに参加して

大澤 明子

ハンブルグからいらした桜の女王をお迎えするパーティーは、海も山も見える、神戸ハーバーランドのとても素敵な高層レストランで開催されました。19時開始ということで仕事を早めに切り上げ、少しばかりおめかしをして会場へ向かいました。到着してすぐ、レストランWOOLの素敵な内装、お店の方々の柔らかな物腰、そして何より、大きな窓一面に広がる神戸の夜景が素晴らしく、一気に日常を離れ贅沢な雰囲気にも包まれました。

桜の女王ご一行さまのご到着、ご挨拶に続いて歓迎会は和やかにスタート。各自に行き渡ったはじめの一皿は、とてもかわいらしく盛り付けられ目にも舌にも楽しいものでした。宴が進むにつれ、フリードリンクの白ワイン、赤ワイン、サングリア、ビールなどなどを、皆さまどんどんお代わりされ、それぞれのテーブルでお話が弾んでいきました。

ハンブルグ独日協会の橋丸会長のお話によりますと、今まで28回「ハンブルグ桜の王女」を選出してこられたそうです。今回の選出より、王女ではなく女王となったので、ラウラさんは「第一代ハンブルグ桜の女王」となられたわけです。

第一代とはいえ実質的には29年の歴史を誇る名誉ある桜の女王にふさわしく、ラウラさんとはとても聡明な美しい女性でいらっしゃいました。ハンブルグの大学では Japanologie (日本学) を専

攻され、過去に2年間日本に留学されたそうです。日本の文化がとてもお好きで、茶道、華道の講義のある学習院女子大学を留学先に選ばれ、今でも浴衣は1人で着られるとか。ただし、「桜の女王として日本に来るときはドイツを紹介する立場なので、着物は着ません。でもドイツでは日本を紹介する立場なので、着物を着ることもあります」とのこと。日独文化交流を担われるラウラさんならではのお話で、印象に残りました。他にも、ハンブルグの街について、学校で学ぶ歴史について、EUについて、難民問題について、民族衣装について、日本の留學生活について、などなど、書ききれないほど多岐にわたるテーマについて、はっきりと事実をご説明くださり、且つご自身のご意見もしっかりお話をいただきました。また、素晴らしいことにラウラさんは、これらをすべて日本語でお話されました。もっと時間があれば、ラウラさんも沢山の参加者とお話されたかったことと思います。

最後には、集合写真を合計3台のカメラで撮影し、ハンブルグ独日協会の幹部の方々がドイツの Volkslied (民謡) を歌ってくださり、お礼に私たちからは「さくらさくら」をお贈りしました。お開きの予定が、万国共通の「音楽」でますます盛り上がり名残が尽きませんでした。本当の最後にブラームスの子守唄を全員で唱和し、「Gute Nacht!」の掛け声とともに会は無事終了しました。

きれいな夜景に囲まれて、日常から切り離された優雅なひと時はあっという間に過ぎ去りました。でも参加させていただいて本当によかったです。神戸日独協会の行事を通じて、ラウラさんという素晴らしく聡明なドイツ人女性に巡り会えたこと、有意義な一夜を過ごせたこと、心より感謝いたし

ます。お世話くださった理事の皆様をはじめ、事務局の方々にも心よりお礼申し上げます。

会員からの寄稿

Berlin で R.Strauss 三昧

会員 押尾 愛子

Deutsche Oper Berlin で Richard Strauss のオペラを五夜連続で上演するというので、観たくなって4月に一週間、主人と二人で行ってきました。R.Strauss のオペラというと、1982年～1992年、Sawalisch が Bayerische Staatsoper の総監督だった時代に、ミュンヘンのオペラ・フェスティバルでシュトラウスのオペラを全て上演し、私の知り合いにもミュンヘンまで観に行った人がいますが、マイナーなオペラはなかなか見る機会がありません。五夜のうち“Der Rosenkavalier (ばらの騎士)”と“Salome (サロメ)”、“Elektra (エレクトラ)” は、日本でもときどき上演される有名なオペラですが、今回は“Die Aegyptische Helena (エジプトのヘレナ)”と“Die Liebe der Danae (ダナエの愛)”という滅多に上演されない作品が入っています。

Helena も Danae もギリシャ神話の登場人物ですが、日本ではあまり馴染みがありません。ヨーロッパでも誰でもよく知っている訳ではなく、しかも作曲家の R.Strauss と台本を書いた Hugo von Hofmannsthal はギリシャ神話をそのままオペラのストーリーに使ったのではなく、現代の私達でも共感できるように、いろいろ工夫や仕掛けをしています。その工夫や仕掛けが上手く伝わらないと、「音楽はいいけれどストーリーがよく分からない」となってしまいます。その作曲者や台本作家の工夫や仕掛けを読み解いて、観客に提示するのが演出家の役目で、私がオペラを観るときが一番楽しみにしているのは、この演出です。勿論、オペラ歌手の立派な声はそれ自体が聴きもので

すし、いい演奏にも期待します。が、ヨーロッパの一流オペラハウスでは、いい歌手、いい演奏なんて当たり前のことですから、やはり一番注目するのは、どう演出するかです。(主人は専ら、歌手目当てです。)

R.Strauss のオペラを五夜連続で上演するからといって、全部、新たに演出するわけではありません。ここ何年かに亘って上演してきた作品の中から、R.Strauss のオペラを集めて一気に上演するのが、3月12日から4月17日までの、“Richard Strauss Wochen”です。

この中で一番有名なのは『ばらの騎士』でしょうか。これは、ベルリン・ドイツ・オペラを代表する演出家 Goetz Friedrich の代表作です。『ばらの騎士』というと、その中に流れるワルツが有名ですが、実はあのワルツはヨハン・シュトラウスのようなウィーンワルツではなくて、むしろメヌエットのような古典的な舞曲を意識して作曲したものだとか。今回の“Richard Strauss Wochen”では、オペラの上演の前に毎回30分ほどのレクチャーがあり、作曲者や台本作家の意図や裏話、演出のポイントなどを説明してくれました。

『ばらの騎士』はウィーンやミュンヘンでは Otto Schenk のいかにもウィーンという感じの演出が定番ですが、それに対して Friedrich のはベルリン版『ばらの騎士』とでもいう演出で、第三幕の「お化け屋敷」の場面では、お化けの代わりに1920年代にベルリンで流行った DADA やキャバ

レー文化を取り入れて、ベルリンの観客を喜ばせています。1993年2月に初演出してからすでに23年、私の見た4月10日は、75回目の上演に当たります。こうして定番といわれる演出が残るのがすごいですね。

こういう定番と言われる演出は基本的に分かりやすいですが、ヨーロッパでは「読み替え」と言われるちょっと分かりにくい演出もよくあります。今回新演出された『サロメ』がそうでした。オペラ『サロメ』は基本的にはオスカー・ワイルドの原作通りです。旧約聖書の時代、ヘロデ王の宮殿で、ヘロデ王の後妻の娘のサロメは宴会を抜け出して、井戸に閉じ込められているヨハナーン(洗礼者ヨハネ)に興味を抱く。ヘロデ王がサロメに余興を命じると、サロメは「七つのベールの踊り」を踊って、その褒美にヨハナーンの首を求める。これが大雑把なストーリーです。「七つのベールの踊り」をソプラノ歌手が自分で踊るかどうか、一枚ずつベールを脱いでいってどこまで脱ぐかに、以前は興味を持たれていました。最近では、ヘロデ王の宮廷というその閉鎖的な社会をどう描くかや、大人の社会の中でサロメはいびつな成長をしたのではないかという点が注目されたりしています。

今回の Claus Guth の演出もまさにそれでした。「大人に囲まれて育ち、精神は子供まま」、「ヨハナーンはサロメの生んだ妄想」というのがポイントで、レクチャーでは「フロイトの精神分析的な演出」だと言っていました。ヘロデ王の宮廷は、紳士服のサロンになり、そこで働くスーツ姿の男たちと、スーツを着たマネキンが、サロメの目には同じように見えます。あるいは見えていないというほうがいいかもしれません。だからサロメと対話する人物以外はすべて、マネキンのようなポーズをとったまま、動かないで歌うことになります。観客の側からすると、声は聴こえるけれど誰が歌っているのか分からないという、ちょっとイライラした感じになります。子供のサロメは、少年の姿のマネキンを遊び相手にしますが、マネキンだから簡単に首が外せます。これが、サロメがヨハナーンの首を求める伏線になっています。サロメはハギレの山から声を聴き、妄想を膨らませてヨハナーンを創り上げます。

こんな演出ですので苦手な人もいるでしょう。私の主人などは一言「分からん！」です。でも、ある日、オペラに行く前にカフェでコーヒーを飲んでいたら、隣の席の年配の男性もオペラに行く雰

囲気でしたので、「オペラですか」と話し掛けると、私たち同様、五夜連続で通っているとのこと。「いやあ、あのサロメは面白かったね」と言うこの男性、70代とお見受けしました。こういう観客がいるから、常に新たに挑戦的な演出が生れるんですね。

また別の日、私が席に着くと Good Evening と隣の男性が話し掛けてきます。この方は Richard Strauss が大好きでアメリカから聴きに来たとか。その隣の男性は London から聴きに来たとかで、もの好きは私たちだけではありませんでした。

滅多に上演されない『エジプトのヘレナ』や『ダナエの愛』は、初めて観る人も多く、いかに分かりやすく見せて、尚且つ、ギリシャ神話の登場人物を描きながらも、妻の浮気をどう許すか(ヘレナ)や、貧しくとも本物の愛を選ぶ(ダナエ)とはどういうことかといったテーマに納得・共感させるのが、演出家の手腕となります。

それにしても五夜連続で Donald Runnicles、Andrew Litton、Sebastian Weigle、Ulf Schirmer などの有名な指揮者を並べ、歌える歌手を集めて、毎晩、R.シュトラウスが演奏できるなんて、本当にすごい！ R.シュトラウスのオペラを堪能した五日間でした。

(押尾さんは、すでに会報でご紹介したように、「朝比奈隆のオペラ時代 —武智鉄二、茂山千之丞、三谷礼二と伴に」(2014年、図書新聞)を上梓されたオペラ通です)

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。会報の次回発送予定日は6月9日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
5月14日(土) 17:00~	2016年度通常総会 会員懇親会	ユーハイム 神戸元町本店	事務室まで
5月21日(土) 14:00~	第150回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室(19階)	当日参加可
5月27日(金) 18:00~	ドイツ文化サロン第10回 女性が支える国際交流	ユーハイム 神戸元町本店	5月25日(水)まで
5月28日(土) 15:00~	シュタムティッシュ	神戸日独協会 会議室(19階)	5月27日(金)まで
6月4日(土) 12:00~	ドイツ語談話室 第150回記念祝賀会	神戸外国倶楽部	5月20日(金)まで